

令和6年度 総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和6年12月5日(木) 開会 午前10時00分
閉会 午前11時30分

2. 会 場 根室市役所 4階 委員会室

3. 出席者等

根室市長	石 垣 雅 敏
根室市教育委員会 教 育 長	波 岸 克 泰
委 員	岩 崎 園 子
委 員	魚 谷 直 世
委 員	兒 玉 歩
委 員	山 本 連 英
根室市 健康福祉部長	斉 藤 貴 志
健康福祉部介護福祉課長	飯 澤 洋 樹
介護福祉課地域包括支援主査	村 井 里 子
事務局 教育部長	園 田 達 弥
教育総務課長	佐 藤 健 史
特別支援教育担当主幹	日 向 正 明
教育支援担当主幹	近 藤 康
学校教育指導室長	角 田 牧 子
学校教育指導主幹	上 原 哲 朗
社会教育課長	松 崎 誉
社会体育課長	渡 辺 孝 幸
総合体育館整備推進課長	能 崎 嘉
図書館館長	旭 明 美
総務主査	飯 島 美 紀
学校教育主査	大 沼 公 治
社会教育指導班主査	餅 崎 幸 寛
社会教育指導班主査	井 口 舞 子
社会教育指導班指導主任	大坂屋 舞衣子
社会教育指導班主任	市 六 拓 磨
社会教育指導班主事補	三 浦 昂 也
公民館事業担当	四十物 雅 治

傍 聴 者 13名
(うち 根室高校3年生有志6名)

4. 付議事項等

意見交換：「市民誰もが住み慣れた根室で生き生きと暮らす」ための公民館活動

議 事：市教委各課の課題と将来に向けた取り組み

5. 議 事

<佐藤教育総務課長>

ただいまより、令和6年度総合教育会議を開催いたします。
開会にあたりまして主宰者であります石垣市長よりご挨拶いたします。

石垣市長あいさつ

<石垣市長>

皆さま、おはようございます。

令和6年度の総合教育会議開催に際しまして、一言ご挨拶申し上げます。

教育委員の皆様におかれましては、日頃より当市教育行政の推進に、多大なるお力添えを賜っておりますことに心から感謝申し上げます。

また、ご多忙の中ご参集いただきまして誠にありがとうございます。

皆様ご承知の通り、この総合教育会議は地方教育行政法のもとに設置をされているものであり、自治体の長と教育委員が一堂に会し、教育行政について意見を交わすことで、教育施策の方向性を共有し、一致した考え方で執行にあたることを目的とするものであります。

今回で11回目の開催となりますが、皆様と有意義な情報共有、また、意見交換ができればと考えています。

本年度の市政方針の中で、教育施策の展開にあたっては、教育予算の確保に努め、将来を担う子どもたちが、ふるさとへの誇りと愛情、愛着を持ちながら、世界へ視野を広げ、社会を支えていく逞しい人材へと成長していけるように支援するなど、住み慣れた故郷の豊かさを実感できる教育・文化の振興に努める。と述べさせていただきました。

また、北斗小学校校舎の移転新築に向けた基本計画の策定、学校給食費の無償化及びふるさと給食の継続実施などの取組に加え、根室高校生が地域資源や人材育成につながる「総合的な探求の時間」応援事業や、スポーツと防災機能を兼ね備えた「総合体育会館の基本計画策定など積極的に推進しているところであります。

本日は、当市の将来を見据えたまちづくりについて、皆さんと意見交換し、今後の教育施策に活かしてまいりたいと考えております。

教育委員の皆様には、忌憚のない意見を賜りますようお願い申し上げまして、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

どうぞ本日はよろしく申し上げます。

<佐藤教育総務課長>

それでは早速、意見交換に入りたいと存じます。

本日の意見交換は、「市民誰もが住み慣れた根室で生き生きと暮らすための公民館活動」をテーマとさせていただきます。根室市政方針に謳われております、「市民誰もが住み慣れた根室で生き生きと暮らす」、そして高齢者保健福祉計画介護保険事業計画の基本理念には、「互いに支え合い健やかに暮らせるまち」が掲げられております。

本日は健康福祉部介護福祉課より高齢者福祉における通いの場の現状と課題について状況報告を行うとともに、教育委員会社会教育指導班による「こころとこころの握手講座」を実施いただいた上で、生きがいつくりや健康寿命の更なる伸長に向け、「通いの場」となる公民館が「今後どのような活動を展開できるかについて」意見交換をさせていただきたいと存じます。

それでは、進行を主宰者であります市長にお願いいたします。

<石垣市長>

それでは進行を務めさせていただきます。

次第の「2」「意見交換」といたしまして、「市民誰もが住み慣れた根室で生き生きと暮らすための公民館活動」をテーマとしておりますが、まずはじめに、今回、このテーマを設定した趣旨について、波岸教育長からお話いただければと思います。

<波岸教育長>

それでは、テーマを設定した趣旨について、お話させていただきます。

本年度、根室市教育委員会では学校教育、社会教育の融合を図りながら、インクルーシブ教育の実現を目指した取り組みを進めております。

「インクルーシブ教育」は障がいのみならず、人種の別や男女差、性についての自認や指向性、学習の進め方やペースの違いなどを一人ひとりの個性と価値観として認め、自分らしくあるための選択や決定を尊重する教育であります。

このインクルーシブ教育を進めていくことによって、子どものみならず、大人も含めて、多様な立場の人々が世代を超えて、互いを尊重し合いながら、相互理解を深め、一人ひとりの市民が自らの幸せを求めて活動していくことによって、豊かな共生社会が築かれていくものと考えております。

先般、東京大学の牧野教授による地域づくりに関する講演会が開かれ、その中で、少子高齢化、地域福祉の担い手の減少など、地域社会が直面している課題に果敢に挑戦し、成果を上げている地域においては、その基盤として公民館活動が活性化しているとの調査結果が紹介されました。災害時はもちろんのこと、公的福祉が人材不足等を背景として十分に行き届かなくなっている状況において、日常の公民館活動で世代を超えた交流が促進され、地域住民の相互理解が深まっていくことにより、「自助」、「共助」の機能が高まり、地域社会の活性化が図られているということでもあります。

こうしたことから、市長が公約で掲げております。「市民誰もが住み慣れた根室で生き生きと暮らす」ことができるようにするため、教育として果たすことができる一つの役割として、公民館活動の活性化があると考えたところです。

そのため、本日は市民の相互理解を深める講座として、令和4年度から開催しております、「こころとこころの握手講座」を体験いただきながら、こうした手法が、高齢者保健福祉計画が掲げる「互いに支え合い、健やかに暮らせるまちに」繋げることができないかどうか皆様の忌憚のないご意見を賜りたいと考えております。

また、本日は将来、根室市職員を考えている生徒、あるいは看護・福祉の職業を目指す生徒、地域社会・地域政策を学びたいと考えている生徒、地域の活動に関心のある生徒を対象に傍聴者を募ったところ、6名の高校生が自ら手を挙げて、この場に参加してくれています。若い世代が教育行政に関心を持っていただいていることを心強く感じながら、活発な議論が進められると幸いです。

<石垣市長>

ありがとうございます。

それでは、教育長の話を受けまして、はじめに介護福祉課より「通いの場の現状と課題」について報告をお願いします。

<飯澤介護福祉課長>

介護福祉課より通いの場の現状と課題についてご報告させていただきます。

通いの場におきましては高齢者が分け隔てなく参加できる活動の場であり、目的は様々ですが、趣味活動や町会などの各団体サークル、また老人福祉センターなども通いの場として位置付けることができます。

介護予防事業におきましては、市内在住の65歳以上の方が自由に利用し活動できる場所として高齢者サロン、旧昭和児童会館になりますが、この場所を地域の方々が利用していただける通いの場として周知・啓発を進めてきたところでございます。

高齢者サロンにおきましては、麻雀やカラオケなどの趣味を楽しむ他、介護予防を目的として月1回ふまねっと運動教室を開催しております。

通いの場の課題としましては、利用者が固定されてしまい、新規の利用者が少ない状況にございます。特に、コロナ禍以降は外出控えの傾向にあるため、利用者が減少しております。今年度より利用率は少しずつではありますが回復しておりますが、コロナ禍前までには戻っていない状況にございます。

また、高齢者の中でも比較的若い年齢層の60代の方々の利用も新たに展開していく必要がある状況であります。

通いの場の推進におきましては、多様な場の活動としての位置付けを考えておりまして、今後は高齢者のみならず地域住民との繋がる場所としての展開が必要になってくるものと考えております。

以上でございます。

<石垣市長>

ありがとうございます。

それでは、次に、社会教育指導班の進行で、「こころとこころの握手講座（ネコピー）」を皆さんで体験してみたいと思います。

社会教育指導班の皆さん、よろしく願いいたします。

<井口社会教育指導班主査>

今からネコピー（Neko-P）という対話の事業をやらせていただきます。

今日は真ん中にマイクがありますが、本来はマイクを使わずに行う対話になりま

す。マイクをどうして使わないのか、その理由についてわかる方はいますか。

皆さん、マイクを向けられて喋るときはどのような気持ちになりますか、一生懸命喋ろうと思いませんか。

<高校生>

緊張します。

<井口社会教育指導班主査>

そうですね、緊張しますよね。

今日は緊張しないためにマイクの代わりとなるぬいぐるみを持ってきました。人は、知らない人の前で何かを話をするときには、喋るときに力を込めてしまいます。

しかし、本当は対話というのはそうではなくて、心理的安全性と言いますが、何を話してもいいという雰囲気、喋らない人たちが一生懸命つくることで、喋る人は、何も判断されないし、否定もされないという安全の中で、自分が思ったままのことを言うことができます。

周りもその話を一生懸命聞きますが、一生懸命聞くとっても、例えば、ぬいぐるみを持っている人に対して全員が前のめりで聞くと、多分喋りにくいと思います。

そのため、ぬいぐるみを持ってない人たちは、人が話をするときに、どうやったらその人が一番本音を話せるんだろうかということや、相手が言おうとしていることを常に考えて話を聞くというのが非常に大切です。

先ほど言っていた、マイクを持って対話を行ってしまうと、マイクが離れたとき、人に渡したときに安心します。マイクを離すことで、自分の番が終わったと思って、次の人に喋ってもらう。これは望ましい対話とは言えません。

周りの人が相槌をしながら聞くことで、安心して話せる空間となり、話す側も、あんまり人に言えなかったことも、ここなら話してみようかなという雰囲気を、ぜひこの場では作っていきたいなと思います。

「根室市の現状と課題について」というテーマだと、話しやすい雰囲気づくりは難しいと思うので、今日はお題を用意しました。

様々な絵を並べておりますので、その中から、好きな絵を選んでください。選んだ絵について自分の感想を言いながら、自己紹介をしたいと思います。それでは、好きな絵を選んでください。

<山本委員>

選んだ絵は見せたままでいいですか。

<井口社会教育指導班主査>

見せても伏せた状態でもどちらでも大丈夫です。

全員、絵を選び終わったようなので、自己紹介をしながら絵を選んだ感想をお願いします。

<山本委員>

株式会社ヤマレンというところにおります、山本連英と申します。

年齢は48歳、辰年で今年は年男です。

私が選んだ絵は、子どもが描いたかなと思われる絵です。

なぜこの絵を選んだかといいますと、私、子どもが3人おられます。子どもが書いたというところに一番いい絵だなと思いました。

私の子どもも、さらには祖父から私までの名前にも「連」という漢字が使われております。

本日は私の名前だけでも覚えてもらいたいなと思っております。

以上です。

<高校生A>

おはようございます。根室高校3年生のAです。

私がこの絵を選んだ理由は、まず第1印象で素敵に見えたことと絵の中で、何かねじれながらどこまでも続いているように描いている部分が、一目見たときにすごい心に残って良い印象を持ちました。この絵を見て個人的な感想ですが、成長していくように感じたためです。

<高校生B>

根室高校3年生のBです。

私は動物の絵を選びました。色が一番明るくて綺麗だなと思ったのと、動物の顔が優しそうだったので選びました。

<波岸教育長>

根室市教育委員会教育長の波岸です。

私は、空を飛んでいる絵を選びました。実際にこの絵のような場景を夢で見ますので、自分自身が何かから解放されたいと思っているのではないかなと思います。

本日はよろしく申し上げます。

<魚谷委員>

教育委員の魚谷直世と申します。

私が選んだ絵は、象です。

実は、象って世界で一番強い動物です。

私は今45歳ですが、今まではずっと健康でしたが、今年になり初めて体調を崩してしまいまして、そんな体調の不安を乗り越えたいなという思いがあります。

さらに、この絵は多くの色を使用していて、自分は色々なことにチャレンジするのが好きなので、様々な色に染まっていきたいなという気持ちもあります。

<兒玉委員>

教育委員の兒玉歩と申します。

私は絵を観ることがすごく好きです。

描くことはできないので、少し絵にはコンプレックスがありますが、観るのはすごく好きなので、今回絵を選んでいる時に誰々の作品だなとわからない絵がいいなと思いました。あとは写實的じゃない絵がいいなと思って迷って選んでいる間に象の絵を他の方に選ばれてしまいました。その中で、この絵はぱっと見て何か面白いなと思いました。少しモザイクのような感じになっていて詳細がわからないので、もう少ししっかりと観たいなと興味をそそられたので、この絵にしました。

<岩崎委員>

教育委員の岩崎園子と申します。

私が選んだ絵は、シンプルに一本の木が描かれている作品です。

なぜ選んだのかというと、自分自身、木が好きだからです。

普段生活していて見える木や根室公園の木とかもすごく好きで、木を見てると、エネルギーというか、安らぎみたいなものを感じるので、四季を通して、春夏秋冬によっても姿を変えるところもすごく素敵なので木は美しいなと感じるからです。

<井口社会教育指導班主査>

ありがとうございます。

本来であれば、今皆様がお話した内容について深堀していくところですが、今回はネコピー（Neko-P）の体験ということで、別の話題についての時間を設けています。

本日は、公民館と社会教育課の職員で考えたテーマで「楽しいこと」です

いよいよぬいぐるみを回して進めていきますが、ぬいぐるみを持っている方がお話していただいて、次に回すときは、誰に渡していただいても大丈夫です。

ルールに縛られず進めていきましょう。

<魚谷委員>

ぬいぐるみを回していくという形式はすごく斬新な形式だと思います。

「楽しいこと」ということでお話をさせていただきますが、私は人生の指標としていることがあります、「人には四つの幸せがある。」ということです。

人の幸せの四つは、「人に愛されること」、「人の役に立つこと」、「人に褒められること」、「人に必要とされること」です。

実は、人の幸せというのは人と人で成り立っているものです。特に、「愛される」以外のものというのは、仕事をすることで、人の役に立ったり、必要とされたり、褒められたりすることで、人間は幸せを感じる生き物だと、私は社会に出てからよく感じています。

だから、人と人との幸せというのは、お互いに人を見てちゃんと認め合わない人間は幸せになれないものかなと思います。

最近だと、また体調を崩した話をしてしまいますが、体調を崩してしまうと、精神的に少し弱くなってしまうところがあって、そういう時も友達や家族に救われたりすると、やはり普段から人と人との関係を大切にしておかないといけないなと思います。以上です。

<波岸教育長>

素晴らしいことを仰っていただきました。

私が楽しい時間は一人の時間です。毎日、単身赴任なのでその時間が一番楽しい時間です。人の役に立つことというのは考えていませんでした。

<高校生B>

私が楽しいと感じることは、一人でいる時間も好きだし、友達と過ごす時間もどちらも大切にしたいと思っていて、学校の中で友達と同じ時間を過ごすことも、私の中ですごく楽しいなと思うし、休日も、自分ひとりの時間を何に使えるかと考えることも楽しいですし友達と遊ぶ時間も楽しいなと感じます。

一人の時間が楽しいという意見は私も感じるので同感です。

<波岸教育長>

意見を大事にしてくれてありがとうございます。

<高校生A>

私は、今年の5月に友達とパソコンを買いに行きました。

アルバイトでいただいたお給料で、性能が良いパソコンを購入しました。

パソコンを買うためのアルバイトもそうですが、自分で何か目標を作って、それを達成していくという楽しさもあるし、その買ったパソコンでゲームをしているときに最近楽しいことです。

以上です。

<山本委員>

私が楽しいことについて改めて考えてみると、子どもと一緒に何かをするのも楽しいですし、逆に家族から解放されて、一人でいるときというのも楽しいなと思います。これが一番楽しいということはないのですが、その時間や場面によって、家族と一緒にいるのがよかったり、一人でいる時間が楽しかったり感じます。

あと最近では、たまにドラマや映画を観ます。そこで面白い作品を見つけると楽しいなと思います。

以上です。

<岩崎委員>

私は音楽を聞く時間が楽しいし好きな時間だなと感じます。

若い頃は、好きなアーティストの曲をずっと聞いている感じでしたが、今は音楽との出会いを楽しむ、という感じです。例えばラジオを聞いてそこから流れてくる曲で、この曲素敵だなと思ったら検索を試みたり、そこから新しいアーティストの曲を聞き始めたり、他の人たちにも教えたりしていると、自分の中に音楽に対する理解の広がりもあって、さらには人との繋がりもあるということで楽しいなと感じます。

<兒玉委員>

楽しいことについて、皆さんの話を聞きながら考えていたんですが、趣味の時間が一番楽しいのかなと思います。

現在、仕事はピアノ教室をやっていますが、ピアノを子どもの頃から習っていて、高校生までピアノを習っている立場のときは、趣味はピアノで好きなこともピアノですと言っていました。ピアノを仕事にするとなった時に、自分の趣味がなくなってしまったと思いました。趣味だったものが本職になってしまうことで、趣味がなくなってしまって、無趣味かなと思っていましたが、根室に帰ってきて茶道を始めたことで、また趣味が見つかったと思っています。

何かを一生懸命やるというのは楽しいなと思っていて、さらにそこで生まれる人とのつながりや、交流を通してその人の良いギャップを発見すると、より楽しいなと思います。

以上です。

<波岸教育長>

人の役に立つこととか、友達といることとか、自分で目標をもって取り組むこととか、家族と一緒に過ごすこととか世代ごとに異なる意見がありますが、私が楽しいのは孤独なときだなと感じます。

先ほどの高齢者の通いの場について仲間作りをしながら繋がっていきこうという説明がありましたが、自分が65歳になったとしても、交流の場には行かないのかなと思っています。

絵の話に戻ってしまいましたが、高校生Aさんに聞きたいと思いますが、「絵の中のねじれたところに可能性を感じる。」と言っていました。なぜそのねじれたところに可能性を感じると思ったのか聞きたいです。

<高校生A>

直感ではありますが、常にまっすぐ進み続けることができる人はいないと思うので、どこかで曲がってから最終的に目的地に帰ってくるという形もあるのかなと思います。

例えば目標を決めて、それに向けてスタートするけど、どうしても壁にぶつかって先に進めなくなってしまったときとか、その時に新しい道を決めて、そこから目標にたどり着こうと努力したら、そこにいつかたどり着くと思うからです。

それを自分が選んだ絵から感じました。

<井口社会教育指導班主査>

波岸さんが「孤独の時間」と言っていました。先ほど山本さんも「楽しいってなんだろうと考えてしまった」と言っていて、高校生Bさんは、「一人の時間も楽しいし、一人じゃない時間も楽しい」と言っていました。孤独だから楽しくないというわけではなく、一人の時間の楽しさというのはどんな感じなのか教えてください。

<高校生B>

一人の時間の楽しさは、友達との時間と違って、自分のしたいことを好きな時間に自分の都合でできる所かなと思います。

<波岸教育長>

わかります。それがいい所だと思います。

<井口社会教育指導班主査>

今のお話について思うことはございますか。

<兒玉委員>

先ほどの趣味の話で、ピアノと茶道の話をしました。両方とも皆でできるし、一人でもできるものだなと思いました。

それぞれ、一人で練習や観賞をしている時間も、皆と共有する時間もそれぞれの楽しさがあるなと思いました。

<井口社会教育指導班主査>

ありがとうございます。

さらに深堀りしていきたいところではありますが、お時間となりましたので、今回の振り返りをさせていただきたいと思います。

このような話し合いの場はどうでしたか。

<魚谷委員>

今後の会議はこの話し合いの場にするので、すごい意見が出るかもしれないと可能性を感じました。

モノは一方向から見ただけでなく、複数の方向から見ただけで初めて形がわかるのかなというふうに感じますので、今回はすごく面白い取り組みだなと思いました。

<岩崎委員>

素の自分になれたというか、会議で何を喋ろうと昨日から考えていましたが、この場で喋るのはすごい自由だし、自分の心の中で心から思ったことを喋ってもいいという安心感があったので良かったと思います。

<高校生A>

すごく緊張していて、何を喋ったらいいのかわからなくて不安な気持ちもありましたが、この場は話しやすくいいなと思いました。

<高校生B>

人の前で喋るのはすごく苦手で、緊張してしまっていますが、この場はすごく話しやすく緊張もせずに話すことができました。

(Neko-P終了)

<石垣市長>

これまでの報告と実践を受けまして、生きがいつくりや健康寿命のさらなる伸長に向け、公民館が今後どのような活動を展開できるか、「まちづくり」の観点も含めて意見交換したいと思います。

まず初めに岩崎委員からお願いいたします。

<岩崎委員>

公民館と聞いて自分が子どもの頃の話思い出しました。

昔、私の曾祖母がお風呂屋さんを経営していて昔のお風呂屋さんは、すごく公民館的な役割をしていたのかなと思うところもあります。

子どもから高齢者の方まで世代を問わず、そこで話したりしていることを考えると裸の付き合いという言葉もあるので、何となく心の距離が近づきやすいのかなと思います。

最近は携帯電話が普及して個人個人での楽しみ方をしていくことが多くなったと思いますが、その中で、皆で行える楽しいことを、サークル的な集まりの場で共有して再確認できればいいのかなと思いました。

今私が所属しているストリングスというバイオリンのサークルも、市民吹奏楽団も高齢化の波が押し寄せてきて、人数が年々少なくなっているの、子どもたちと交流できる時間を増やして行って、たくさんの人と関わるような仕組みができると、何かその中で自分の人生を変えるような出会いがあるかもしれないし、そこまではいなくても自分の生きていく中で、こういう大人になれたらいいなとか、根室に対する熱い思いを持てるように人との繋がりができていけばいいなと思いました。

以上です。

<石垣市長>

ありがとうございます。

次に魚谷委員お願いします。

<魚谷委員>

数年ほど前に、根室高校の高校生から市長への意見というか提言で、根室市にラウンドワンを作ってほしいといった意見がありまして、聞いた当初は何を言っているんだと思っていましたが、今は結構心の中に刺さっている部分もあります。根室の高校生が卒業して進学をした後は、根室に戻ってこない。根室には遊ぶところがないといったアンケート結果だったと思います。

確かにその通りで、根室市の人口に対してテーマパークやアトラクションを作るとするのは、非常に難しいなと思います。

現在は、公民館の市民講座って面白い講座がたくさんあるなと思うのですが、どうしても市民講座というように市民がターゲット層になってしまうのかなと思います。

市民をターゲットにするのと、根室市に来る約40万人の観光客をターゲットにする講座では、内容が変わってくるのではないかなと個人的には思っています。

もちろん市民講座という中で市民に対してやることは大切ですが、地方から人を呼

べるように、公民館がその地域の一種のテーマパークとして使えるような観光客も来てくれるような公民館を作れるよう、面白い取組があったらいいなと思います。

市民に還元するのはもちろんですが、市外の人からも呼べるような魅力のある施設があればそれは根室市民にとっても魅力のあるものになるのではないかなと思っております。

以上です。

<石垣市長>

ありがとうございます。

次に兒玉委員お願いします。

<兒玉委員>

私が想像する公民館・総合文化会館に行くときというのは何か文化祭などの行事のある時や用事があるときに見に行っています。

事業としては、各講座や成人学校とかも本当に興味のそそられるような内容で行っていただいているなと思います。

私もストリングスという団体に弦楽器をやっていますが、根室の大事な北国讃歌という飯田三郎先生が作った交響組曲を演奏することもあるので、団体の平均年齢がどんどん上がっていますので、北国讃歌をずっと続けていくため、今後も継承していくために、例えば中学生高校生の吹奏楽部にも一緒に入って演奏してもらおうとか、今行っている事業について広く周知していただくのもいいなと思います。

さらに、行事とか何もなくても文化会館に行きたいと思える何かがあるといいかなと思います。

例えば今、小さい子が一生懸命やっている宝探しとか、高校生の学習室として開放してくれていたりします。行事はないけど文化会館・公民館によっていこうかなとか、そこでみんなと喋ろうかなとか思えてきて少しずつ充実してくると、交流の場にもなるのかなと思います。

以前、フリーピアノを実験的に多目的ホールで行ってくれていたと思うのですが、例えば飯田先生の資料室に設置してもらおうとか、そこに小さく漫画喫茶みたいなスペースがあったり、行事など何も無いときにでも行ける文化会館・公民館っていうのがあると嬉しいなと思います。

<石垣市長>

ありがとうございます。

次に山本委員お願いします。

<山本委員>

公民館に限らずとは思いますが、高校生が高齢の方にスマホの使い方を教えるスマホ教室を開催するといったことも考えてみるといいのかなと思います。

6人ぐらいのサークルで話すようなイメージですが、高校生からご高齢の方にスマホ操作のわからないところを教えると、ご高齢の方からは、例えば昔の根室の話と

か、子どもの頃の根室の話とか、あとは自分の働いてきた仕事についてとか、自分たちよりもさらに上の世代の話とか、そういった話を聞ける機会というのがあるのもいいのかなと思います。

最近、昔の根室の話を会社の人と話しておりましてその中で出たのが、市内に映画館が複数あったということです。今のあの場所に映画館があったという話を聞かせてもらいました。

他にも、花咲港が全盛だったときの活気ある話とか、そういう話を聞く機会っていうのは今後減っていくと思うので、伝承ではないですけどもそういうご高齢の方と若い世代が昔の根室について話す場というのを、スマホ教室などの集まりを通じて持てるようになればいいかなと思います。

あとはサウナというのも1つの選択肢かなと思います。
以上です。

<石垣市長>

ありがとうございます。

今の意見を聞いて、波岸教育長いかがでしょうか、

<波岸教育長>

今、委員の皆さんから多様な、多面的な意見が出されたんですけど、共通しているのは居場所作りなのかなという思いで聞いておりました。それが昔はお風呂屋さんであり、あるいは自分が住んでいた場所とか、自分の話を聞いてくれる場所とかだったと思います。

根室には他の町にはない自然もありますし、歴史もありますし、文化もありイベントもあります。今まで、その居場所作りというのは、何かのイベントとか場所そのものというふうに考えていましたが、最近では根室の一番の宝というのは人なのかなと思います。

様々な世代に、自分の考えや気持ちを受け止めてもらえるような、その人の心の居場所をどう作るかというところが柔軟に発想すると今までのイベント作り場所作りというところから発展していけるんじゃないかなと思っております。

先ほどの高校生がスマホの使い方を教えるといった件について資料があります。

おじいちゃんおばあちゃん世代のところへ行ってスマホの使い方を教えるとか昔の話を聞いて買い物の手伝いをする。

そういう取り組みの中で世代間交流を進めるというのは、色々なやり方があって有償でやっているところも、あるのはボランティアでやっているところもありますが、そういった中でお互いの世代間を超えた助け合いや見守りというのができて、そこからの発展性もあるのではないかなと思います。

何か心の居場所作りをソフト面できるところから進めていければもっと面白いことができるかなというように思いますし、それを行政の中でも進めていけたらいいかなと感じております。

以上です。

<石垣市長>

市役所で仕事をしていくときにも、先ほどのネコピーのような形式で考えていくというのも、いろんな政策を推進する中ではいろんなアイデアが出るかもしれませんね。私は根室高校の生徒さんから提言いただいた、ラウンドワンについて、既存の施設とうまく組み合わせると、その建物に近い整備ができないかなと思っています。

根室は根室管内にはないボウリング場を持っています。

このボウリング場も交流の場では非常に大切に、やはり守っていくべきものだと思うってボウリング場を活用しながら、様々なソフト面を組み合わせる居場所や集う場所が必要なのかなと思います。

趣味というのは、自分で楽しいと思うことをやりながらも、その中での自分の交流するネットワークができるので、すごく良いことだと思います。

交流の場を作っていくために、公民館・文化会館を1時間とか短時間で借りられるようになると、その団体の払う利用料が少なくなり、使用機会も増えていくことも考えられるのではないのでしょうか。

市役所庁舎についても、何とか市民皆さんに使ってもらいたいと思い、1階と4階を年末年始も開けます。正月も来ていただいて利用していただいて構いません。

最終的にはこの町自体がネコピーな町になるというのがいいのかなと思います。みんながキャッチボールできたり、普通に話せたりするということが以外も含めてですね気軽に集まることができる施設の利用方法を検討したいと思います。

また、来年度には「根室市教育大綱」の策定も控えておりますので、こうした連携も視野に入れながら進めてまいりたいと考えております。

他にご意見はございますか。

(特になし)

議事 市教委各課の課題と将来に向けた取組

それでは次に「3」の議事に入ります。

市教委各課の課題と将来に向けた取組について教育総務課から順に説明願います。

・教育総務課長

「小・中学校の義務教育学校化及び学校施設の整備について」

【議事資料1 Pにより説明】

・社会教育課長

「社会教育土育成支援事業について」

【議事資料4 Pにより説明】

「多世代交流コミュニティ活性化事業について」

【議事資料5 Pにより説明】

「文化財の環境整備等について」

【議事資料6 Pにより説明】

- ・ 社会体育課長
「「スポーツ課」への課名変更について」

【議事資料 7 P により説明】

- ・ 総合体育会館整備推進課長
「新総合体育会館建設に関する取組」

【議事資料 8 P により説明】

- ・ 図書館長
「子どもブックライフ応援事業の拡充」

【議事資料 9 P により説明】

<石垣市長>

ただいま各課長から発表のありました事業は市の政策会議において協議されてきたものであり、あくまでも市教委が「来年度予算要求したい」という段階の事業であります。皆さんからご意見等ありましたらお願いします。

<魚谷委員>

先ほど教育長室に行ったら、写真がたくさん飾ってあって、小学生が撮ってくれた根室の写真がありました。

どうやって撮ったのか話をしたらタブレットで撮ったと言っておりました。このタブレットは学習だけじゃなく多様な使い方ができる中で、世代間の交流コミュニティとしても素晴らしいのではないかなと感じています。

個人的には、小学1年生が使えるタブレットは、高齢者の方70歳80歳を超えた方でも使えるのではないかなと思いますし、使えなかったら高校生が教えるといった取組があれば、このコミュニティももちろん活性化できると思いますし、その他にも見守りや健康相談も効率的に行えるのかなと思っております。

限られた予算の中で、タブレットをそもそも貸し出すとことはできないかなと思うのですが、面白い取組になるのかなと思ったりしています。

<石垣市長>

斉藤部長いかがでしょうか。

<斉藤健康福祉部長>

高齢者の方はやっと今スマホに慣れてきたなという中なので、今後はスマホを使うことが容易な時代になってくると思います。

高齢者の健康増進計画とかでは今後活用していく場合が増えてくると思いますので、タブレット活用方法について前向きに検討していきます。

<石垣市長>

熱心な意見交換ありがとうございました。

本日、皆さんからいただいたご意見・ご提言は、今後の施策検討に向けて、庁内との関係部署とも連携し情報共有してまいりたいと考えております。

続きまして議題の「4」その他について事務局から何かありますか。

<園田教育部長>

特にございません。

閉 会

<石垣市長>

それでは、本日予定された議件は全て終了いたしました。

本日いただいたご意見も踏まえながら、当社の将来を見据えた教育政策を着実に進めてまいりたいと考えております。

本日は貴重なご意見を賜りまして誠にありがとうございました。

<佐藤教育総務課長>

以上をもちまして令和6年度根室市総合教育会議を終了いたします。

皆さま本日はお疲れ様でした。

(11時30分終了)